ア調査会会長のあいさつから

判断をしておられたように思えたことです。 見ました。 やっていたときからのお付き合いでして、 んは非常にアジアの問題にお詳しい。 究会をやっておって、 アジア調査会と中嶋先生との関係は、 中嶋先生は常に深く研究されて、 わざわざ来ていただきありがとうございます。 よく勉強していらっしゃる方だと、 中嶋先生と長い間のお付き合いで私がよく感ずること アジア調査会が箱根の小涌谷で箱根シンポジウムを その研究会の幹事をしておられる。 特に中国のことについてお 時流に惑わされない公正な もう二十年ぐらいで非常 現在でも月に一ペ きょうはお忙しいと 私はそういうふうに (太田アジ 中鳴さ す から、 ろ中 本

開放 体制の行方ー

中

嶋

嶺

(東京外国語大学教授) 雄

きちんと押さえる必要があるのではないかと思うわ れだけに私どもとしては、 内の激しい反日感情が再び噴出し 踏まえておかな 小平体制にはどういう問題があるのかというようなことを とですが、 国がどらい 日 皆さんご承知 のテ I やはり日 7 いと う方向に行こうとして は 中 最近の中 0 いけないと思う。 関係を考えるに しい わゆ このへ る蛸 国情 んで中 国間 たことも事実ですし 勢と日 特に、 し、 2 題をめぐって中 し、 国 中 る ても、 関 の現状を、 0 この九月中 係 力 現在 このとこ けで まず うこ 国 の鄧 そ 国 句

围 代表会議と鄧 体 制

治セレ のトップ れたということが伝えられ そういう状況の中で、この九月には中 大きな政治的 りということだけでは総括できない結果をもた できなくはないですが、 を含めて五分の二ぐらいが入れ代わってい に苛立ちを増 も必ずしも順調に行ってい 化政策があ かなり政治的にも過熱していた時期でして、 ってきたと思 って中国 ては、 ts 若返りということからすれば、 春ぐ かったかという問題が当然出てくる。 いうものが開かれた。 E 治の 一つの若返りが行われたというふうにいうことも もかなり大幅に入れ代わってい 5 = うも 国内には新しい一種の路線闘争がか いから鄧小平の開放経済体制なり国内経済活性 ちこちでいろい 500 のが開 なセ 方 大させていたというふうに思うわけですが から 非 か いずれ 常 V ら見てみると、 モニー かれたわけです。 重要であったと同 よく見てみると、 にしても、 ない。 ておるし、 そこでは、 があった。 ろ矛盾を来たして、 そういうことが中 この なぜ鄧小平さんが引 この九月は中 確かに中央委員 私 中 九月に中 人事の若返りが 国共産党全国代表会 時に、 る。 は 围 これは単に若返 同 る。 共 その限 時に政治局 特に今年に入 この 産党全 なり明白 経済 これ 政治局など 国 6 田田田 九月の政 7 一国社会 りに 0 を 围 てい など 行わ 上で 内が にな 的 代表 3



雄 氏

るというふうに見るわけです。 あと四割というところはむしろ抵抗 目標は、 という結果をもたらして今日に至ってい えるわけです。ところが、 の九月の全国代表会議で固めたかっ 実際には鄧小平としては、 考えると、実は若返りというのは一つの隠れ蓑であって、 年齢の最高幹部が座 常務委員、 は見ます。 軌道修正さえ余儀なくされ ほぼ六割方は達成されたかもし つまり、 つまりトップ5の中に陳雲という鄧小平と同 この九月の代表会議に 2 てい それが思うようにい るわけでして、 わば鄧小平なき後の体制をこ かねない に出 たというふうに 状況が出てきて 会って、 るとい れ ts かけた鄧小平 これらのことを H かな うふうに 鄧 n 小平 か 私 は考 2 ľ 私

来年、 可失、 して大丈夫であろうかという不安にいつもつきまとわ だけのことができるのか。もしも自分が亡くなったときに 彼自身は八十一歳だから、いよいよ成熟時間の段階に入っ 八年から十年というと、やはり今年(八五年)です。 しい 時間ということを考えている。彼の一番好きな座右の銘は 楽を政治の中に取り入れることを忘れた。鄧小平はいつも 東の場合には、 間の政治 あと八年から十年自分がやるというようなことを言ってい 七月に奇跡的な二度目のカムバックをしたときに、彼は、 とをまず申し上げなければならないと思う。私は以前、 の会でもちょっと触れたかと思うが、鄧小平は一九七七年 ってこの九月という時期がいかに重要であったかというこ る鄧小平としては、 チャンスは失うべきではない。時は再び来たらず(機不 っている。鄧小平からすれば、一九七七年を起点にして そのことを説明申し上げる前 私が前から申し上げるように、鄧小平という人は 間的なスケジュールからいっても到達点であった。 時不再来)」――。それが自分の一番好きな言葉だと 再来年というのが、いよいよ鄧小平政治にとって 学に長けた大変したかかな指導者である。 端的 あるいは胡啓立というような若い世代で果た 自分が永遠になってしまって時間という要 にいえば、 自分が死んでも大丈夫だという体制 自分の生きているうちにどれ に、 やはり鄧 小平体制 今年、 毛沢 九

> 制"が形成された。それで現在を迎えようとしたんです。 して、非常にビューロクラティックな、赤い貴族の独裁体 ス(党の政治装置)そのものをかなり鄧小平好みのものに 局を機能強化して、 ば聞くのもおぞましいと思われる「主席」という言葉をやめ 党から、 決着を党中央においてつけたわけです。そして、 次の八二年九月の十二回党大会で、いわば最後的な政治的 革命と毛沢東政治を否定し、華国鋒を批判した。そして、 る決議」という公式文書を採択して、文書の上でも文化大 年半たって、八一年六月の六中全会で華国鋒を引きずり降 て「総書記」というふうにして党規約を改正し、そして書記 ろして胡耀邦に代えた。 るまでになった。当時の十一期三中全会です。それから二 て、七八年の終わりには党中央の中でほぼ多数派を形成す を作りたかったんだろうと思うんです。それはこれ にはうまくやってきたんです。七七年にカムバ 鄧小平のように文化大革命でやられた人からすれ 中国の政治のパーティー・アパ 同時に「若干の歴史的問題に関 中国共産 V ック まで政 イタ

整党」めぐる異例の会議

国共産党において「整党に関する決議」を採択して彼は日邦が日本に来た八三年十月はどういう時期かというと、中にはなんであったかというと、整党という問題です。胡耀ところが、その後の中国共産党にとっての課題は政治的

前

はともかく実態としてはなかなか実現していないことを

年十月に全国代表会議というものを開 本 るんだということを決めた。 たんだけれども、末端レベルにいくと、 党中央レベルの非毛沢東化は意外にスムー は二十五人に一人が平均的に共産党員の社会です。 四百万ぐらいを対象にするんだという。 整党がなかなか進まないんです。昨年から今年にかけて 予定では、 制で党を純化するためのいわば政治的キャンペーンなんで 地方へのパージなんです。 るんだという。 いことが書いてある。 すが、これを三年がかりでやるんだと言ってい 整党」となって、 に飛んできた。 今年(八五年) るい 央の四十七万人ぐらいが整党の対象になった。それか ところが、このごろ余り記事にもならないように、 うものはこれからだと。こういうふうに考えると、 四千万党員ですから。 わば隠れ文革派、 この八 当然のことだと思う。そこで鄧 そのうえで次の八七年の党大会で決着をするの 当初は整党運動と言ったけれども、 この整党の決議を見ると、大変すさまじ 五年くらいで終わ から来年にかけては中堅クラス 上から下への一種のパ とにかく、まだ陰に陽に陰謀を企ん そうい ι, ところが、あとの二千 本当は整党をちゃ ってみれ うものを根こそぎ追放 ってなけれ いて人事 は鄧小平・胡耀 いろいろな抵抗が 中国という組 ズ ージ、 小平とし た。 の刷 んとやる ばいけなか 中央から 换 当初 後に 新 T の干 十億 数 は昨 を C. 邦 織 X 六 百 は 0 体

中

が開 する。要するに法に基づいた政治を共産党もやってい れて、そして、それは毛沢東時代のように十数年も党大会 産党全国代表大会、つまり党大会ではなかっ だけなんです。中国共産党規約にもない異例の会議で ぎたわけですが、 軍の時期にそういうものが一回あったけれども、これ 異例の会談を聞いて、基盤 大きな規約違反をやっ 共産党の指導部です。 だということを言ってきたのが鄧小平であり、 この九月の中国共産党全国代表会議というものは、 いわば正規の会議ではない。それから建国後三十六年を過 代表会識というものは、一 らに私は考えるわけです。 年待てなかった。そこで、 れから二年というのはものすごく重要な時間ですか はどういうふうに党規約を読んでも党規約違反なんです。 にまず注意を喚起していただきたいと思う。 国共産党の党規約は、こないだの十二回党大会で改定さ 普通のやり方なんです。ところが、 かれないというようなことを改める。 らの点は、 9 建国後でも一度だけそういう会議 日 にも の中国の法制 て強引に決着をつけようとし この九月に全国代表会議 ところが中国共産党史上、 か 時、 を固めようとしたんだというふ か 抗 わらず、 日戦争をやっている革 化というものが、 鄧小平にとって その指 民主化 たとい しかも、 現在 專 部 自身 の中 中 うこと から これ 全国 ある 国共 < から 5

から

すると、やはりいろいろ問題がある。 な法感覚であると思うけれども、そういう伝統なのかもし 法を犯して民と同罪」ということが当然視されてきたよう る鄧小平体制でも平気で行われている。これは根元をさか すから、 い憲法によって、いわば軍の統師権も持たない国家主席で は李先念という国家主席がいるんです。しかも、 のぼれば中国社会の法感覚、 ことは、 かわらず、記念式典のあいさつさえしなかった。そうい 行事なのに鄧小平が全部 は建国三 代表が行った。三千人の青年たち に属する人です。結局、 している。 問委員会主任という、 まさに儀式用、 しかしながら、 現在の民主化し、 十五周年の大変派手な国家行事でした。なぜ国家 たとえば、 いずれにしてもそういうことから 彼がすべてを牛耳ってい 昨 セレモニー用の主席 取り仕切ったのか。 いわば自民党でいえば顧問会議 法制化し、毛沢東を批判し 年の 法意識というものが「天子、 国度節 も行ったわけです。 は 日本からも大勢の 鄧小平は党中 であるにも 彼は新し る てい 5

によるんだということを付け加えて大会招集の決定をしてでしょう。わざわざ、この会議の招集は党規約の第十二条表会議をやるにつけては若干後ろめたいところがあったんす。やっぱり、そこは少し中国共産党の指導部も今回の代の開催決定は去年(八四年)の十月二十日にやっているんでの開催決定は去年(八四年)の十月二十日にやっているんで

てある。 事とかいうことはちゃんと第三章の別の十八条以降に書 かったと私は見ます。 デター よって全国代表会議をやって大幅に役員を入れ代えたとい 後に中央委員会というものを聞いているけれども、それに すから、これは、やっぱり法に照らして、 約のどこを読んでもない。そして、党大会とか党中 1 いうことが書いてあるに過ぎない。それをすごく拡大解釈 題があったときには代表会議というものを聞いても いる。 っちゃったんです。 うな、市よりも小さいわけですから、一 すが、中国の県というのは行政組織とすれば日本の郡 う言葉があるから党中央も県段階以上といえば以上なん 段階及び県段階以上についての規定なのです。「以上」と ご覧になるとわ て党中央委員会の人事まで決める全国代表会議を今回 ところが、結果的にどうも鄧小平の思うようにならな " みたいなものだったんです。 ところが、 そこには全くないことをやろうとしているわけ 規約上が大変問題もある。 かるように、これは、いわば地方レベ 十二条とい しかも、 その理由はあとで申しあげます。 全国代表会議というのは党規 うのは中国共産党の党規約を これをやろうとし 鄧小平の 番地方末端で何 もちろんその前 央の人 ルの県 か問 のよ C.

一高崗事件

宝国代表会議というものが一回だけ建国後開かれていると ちなみに中国共産党において、そういうイレギュラーな

て東北 疑いを持たざるを得 2 ない事件 闘事件で 申 さんよくご存 きことに、 も名前を連らね のようにいさぎよく切腹するという政 中国 反逆を党に示 i 老舎が自殺するということは本当に ついては にもよく知られてい たが、 華国鋒だって 処断 う中 治 委員 一人は自殺するという政治文化を持ちません。 0 は たときし の人たちが ですが 高崗 知 す。それを処断するために開 したのです。 国共産党にとって大変深刻ない このときに初め をやっ で られ それ 言うまで まり、 事 L 知 てい 件 た 7 0 か全国代表会議 した」というふうに決議 は一九五 全部パ 政治家が中 1 髙 は林彪事件 たときかとい から 政治局 る ts \$ な 2 崗 には獄中 た プからヒラの中央委員に落とされ 旧満洲 林 いり ts い か 彪 5 1 人材だ 五年の三月中、 いずれに ージされ て鄧 その鄧小平が初めて表に出て は 委員に補選された 平 鄧 高崗 で自殺することによっ と同じようなナゾが解け を独立 国 うと、 はな 型 2 1 の共産党の政 小平と林 関 た 平 の自殺とい 7 せよ、 0 んです。 は、 い い 王国化しようとし 治文化 戦 異例なんです。 くわけです。 いた緊急会議な 高崗 それ 彪とい わば F で言われ しかも、 い そう その 旬 う言 もない 第 ま んです。 治舞台にの 反 饒 な う二人の皆 い 党 漱 他 で 2 葉 う事 た。 注目すべ で 野 あ 文革 门 石 介自身に わ b 7 で 日 戦 ま 林彪 けで そし 盟 事 日本 ちろ た高 す。 -2 本 軍 さ 파 h 中

> 浮かべ ts 0 0 は高崗 あのことを、 2 つつ今回 たんです。 事件の の全国代表会議に臨んだことは 処断 ですから鄧小平とすれ おそらく心の中で秘そかに に彼が活躍 L って、 は そして 感慨 9 間 か 深く思 5011 違 7 ts 年

た

前 汇

脚 光 浴 び た

を忘れ とに れは必 でし な政策 平も 済だとい ことを わ これほど は、 0 かる 強調した。 うことを言うけ から ところが、 しかも、 今回 演 ついてはすで 経済 説をし ずしも若返りということだけではとらえられない K って喜 西侧 それ 対 0 うことを忘れ 中国共産党史上脚光をあびた党の会議 の会説に 開 は、 L 今回 これは陳雲の持論です。 から、 て真 たが、 放 4 体 確 んでいるヤツは誰だと言 [1] 近 れども、 2 制 の会議の最後は陳雲が演説をし に述べた。 の全国 おいて陳雲という存 か やつ 向 なり、 その後に陳 L に 7 た から批判 人事の若返りをや はだめ ばり基本 り、 代 P 万元戸 表会説 まず第一に、 はり基本 市 した なんだとい 雲が演説をして、 埸 は計 はどうい × カ ん いいことだとするよう は社 よく です。 在 = 画 わ 経 ズ 2 たけり 済な んば 決定 う会説 知られているよ うことをし 会主義 4 陳雲という人 を 万元戸なん んだ。 かりの 其 的 九 は 現在 の計 とも 汇 ts ts 3 こと 発言 鄧 かる 0 った から 小 2

わけです。 理論です。 いうことを言 作っておかないと栄養をとって太った鳥が逃げちゃうよと 政治ではだめだけれども、 に文化 では農民だって働きはしない きてきたんですけれども、 間のある社会ですから、 東政治の根本的 しようとしてしまったところに悲劇があったと思う。 けです。 代はもうごめんだという点で 鳥カゴ 大革命 それと同じようなことを今回も非常に強調 共産主義でないとだめなんだというのが陳雲の 中、 っているわけですか あれでは鳥が窒息しちゃうじゃない 経済論」といわれる陳雲の経済政 な問題は、 私も中国に行 すき間 しかしながら、 そのすき間をも、 中国社会というの んだ。 ってお の中でしたたかに民衆が生 5 は鄧小平と陳雲 そこで、 枠組みはあくまでも 2 たけ カゴはきちんと 東東 は非常にすき れども 1. わば政治 策 は毛沢東 は は 致す 毛沢 確か 毛

いつも冷や飯を食わされてきた。 大会にも出席した古参で、 に反対したし、そうであるだけに経済幹部 科学技術庁長官らが行った。私も若干政府 の陳雲という人は、一 ていたわけです。 日 本 か しているが、 5 は閩田外 八〇年のプラント 九三五 務大臣、 十二月上旬 五〇年代 それだけに私 年のコミンテ 渡辺 から毛 K 送美智雄 日 キャ 沢 中閣僚会議 でい 1 東の農業 通 も非常に ルン か + なが 産大臣、 らご下 第 5 七 注 [1]

とはい た人である。 から を決めている。そして、 演説をして、 約上にもない。 要な意思決定がされるのが党中央工作会議です。 ばしば、こうい せんぞ、 いってみればおれ までは政治局常務委員といったって葉剣英は老齢 過ぎる、二十数名になりますから。それからついこないだ 局全体ではとても意思決定はできない。 で行われるのかをいつも見ているんですが、 その後に開かれているのが党中央工作会議。 問 にない。 に対して説明して「大丈夫です」と。 た記憶がある。そしたら関係会議で中 も大丈夫か、 1) 決 かあ いろいろな人がいるところで意思決定ができない。 々に日本側 2 え、 とがんばっていたわけです。 ほどまで 私などは、 たも 基づいてプラントを大量に買 鄧 彼の鶴の ということを念を押してきて下さい 現存の指導者の中で選集が出ているのは陳雲 小平と必ずしも意見が一 のだから「中国はこのところ日中長 に通告されて二月上 らいわばケース・バイ・ケースによって重 そこで陳雲が「外債問題について」とい に中 の眼の黒いうちは鄧小平の思い通りにさ いったい中国共産党の意思決定はどこ 国の経済運営に 一声で中 翌八一年一月下旬から、 国側がプラント それから李先念も 致してな は影響力を持 それで帰ってきた。 国側の谷牧が には大騒 い付けてい 人数もちょっと多 今見ても政治 これも党規約 中 か これ るけれ 切 そのこと 化し 2 上と申 日 貿易 な سِد は規 本 2 5 しい

と鄧小平の二人だけです。

とが鄧小平なき後どういうふうなツケになってくる 多い人です。い 東をひっくり返し、 私が見るところ、 それだけし われわれ考えておい ろんな人を切ってきています たたかな相手なんですが 鄧小平は大変したたかな政治家で、 周恩来の影もすっかり消 7 い いと思う。 门 か 時 に彼 50 したわけで そのこ かとい は 敵が

いり

陳雲のソ連協調

15 きゃだめだということを言うんですが も供与し はこれだけ中国に経済援助もしているわけですし、 思う。そのぐらいの人なんです。その陳雲は従って日 党で無記名でトップを選んだら陳雲がなるんじゃない とで非常に発言力に重みがある。 の経済協力などについても、どちらかというと非常 抱き を切ったわけでもない。 5 会えない 日本の財界人、政治家、誰も陳雲に会ってい かかえんばかりにねんごろに応接していた。 副首相が去年(八四年)の十二月に来たときは、 は非常に人望があるようです。 その てい そういう人材。ところが、陳雲はソ る。 んです。 中 国の経済 中国との経済関係は日本が一番大きいん 私もしばしば政府 いの元締 しかも大事なときに めである陳 私などは今もし 鄧小平 中国側が会 の方々に 連 雲に会って か ・ほど第 らア \$ た 中 言言うこ 12 円借 亩 しい ヒポ たか と思 本と 四共産 消 かと って 日本 線で

> 木、 5 す。 雲の方は、それに対して姚依林副首相とかテクノクラー ちが鄧小平の考えている後継者群であるとするならば、 な共産党青年団 それから次の世代は胡啓立とくる。 港の雑誌なん もはっきりし わけで、 らの人びとのあいだである種のコアリッ の李鵬。彼もソ連留学組でロシア語がよくできる人。 を持っているとは思わない。つまり彼は、 みれば陳雲の立場は鄧小平以上にソ連との協調、つまり、 ったのはある種の妥協の産物。 るとは思えない。 非鄧小平系、 そられの人たちが一 鄧力群とか、 かなりバック 私の従来からの意見では趙紫陽という人はそれほど力 陳雲は保守派と言うんですが、 このへんの問題が今回の たということです。 かは鄧小平や胡耀邦、 の赤い貴族のエリートたち。 あるい そらいら知恵袋 グラウンドが強い。 そもそも趙紫陽が早い 種のコアリッ は反鄧小平系の やっぱり鄧小平、 党代表会說 のようなブレ それから王兆 趙紫陽などを改革 党幹部の中でも胡 ションを作 私はそう見ない ショ 政治連合がある 時期 ラインに立 これ ンがあるん のに首相 1 7 胡 は っておる らの人た 耀邦、 \$ からず これ みん んで ٦ か 0

なか ている旧実権派内部で中国の経済路線をめぐってこんなに った。 ってみれば、 あ それと同時に中国内 るいは、こんなに明白な意見対立が出たことは ずれも非毛沢東化とい 部において陳 う点で 雲という存在 は 致

まり、 の青少年をし な両極 に万元戸が出 ると、「われわれの政策が、もしも両極分化をもたらすな 引用し は「全党が深く理想と規律の教育を進めなけれ なってからは イルを取 人民 」という地味なものだが、 にあっ もしもわ 毛沢東時 分化をもたらすならわれわれは失敗したこと つまり、富める者と貧 て毛沢東の批判をする、この社説も同 日 ほど目立ったことはなかったというふうに申 われわれは邪悪の道に いってい 報 よう。 て資本主義思想のとりこにするということは れわれが新 っきりし はならない」。 てくる。 非 た。 代がそうであっ 常 このことは、 そのさわりの部分をそのまま読 K 依然とし てたんです。 重要な社説が出 L いブルジョワジーを生み出 こういうことを言ってい L 鄧小平の言葉を引用し 入り込んだことにな て貧し たように、 実はすで い者が再び出 たとえば、 い農民がある) た K この社説 毛 か てくる。 じようなスタ 沢東の言 な 六月 ば り、 る。 今年 7 6 0 1 L にな こん 中国 でみ る 葉 題 L 日 ts わ た を 名 汇 2

具体化に それから それ 5 政策 そうした広大なパ か 5 か 「四つの現代化 過ぎな は、 所 共産 得 い 0 主義の 四倍 当 ースペクティブを実現するため 面 增 -0 偉 0 当面 経 大な理想の 済体 家 0 0 富 中 制 強 の改革及 国の国家目 現段 人民 階 び 15 0 各種 標 富 お ける です 裕 0

題

けです。

するとい る写真が出 が、ここに陳雲と鄧小 国が外にオー ら雑誌、 が六月段階で出ているわけです。 と教育をきちんとやらなければいけない。このような主張 的な立場である」と。 かい 忠実な人だというふうに見るわけです。 ろ保守派とい り、 はあちこちでちょっとご紹介申し上げたが、『瞭望』 っていろいろ批判 信念を堅持することであって、これがわれわれ 重要なのは規律であると。「規律を守る最高の 報』の社説によると、そうした目標を達成するに ーソドックスな縮小均衡型の社会主義計 ということをいうわけです。です の必要条件なんだ」。十分条件とは言っ があるということを示し それはあくまでもマル やっぱり、 般に中国が日本に向ける顔しか見ない。 内 うことをはか 部では陳 中国共産党の ているんです。 + らよりも原則派だと思う。 ラ あくまでも社会主 雲と鄧小平と二つ 1 している。 ズ にも L らすも 平が非常に仲良く並んで談笑し 直接の機関紙ではない T これなどは明らかに今中 てい 出 かかわらず最近 クス主義を堅持し、 認 だから、 L るわ てい 8 てい から、 七月段階になると、 義、 けでし るウイ の大きな指 、 る。 もら一ぺん党は規律 従って、 より原 私は、 定主義 7 画 ところが、 て、 1 の風潮は、 経済路 い ク けれども、 谷牧が出 な の党の 共産主義 1) 則 導 陳雲はむし であって、 基 者 1 は、一 線により 的 池 -人民 国 から これ 2 併 ある 根 日 本 本 何 日 0

日本軍 てい 一%ぐらいになって から、 の人が喜 題だって胡耀邦や伍修権なんか日本に来て、 5 にもモ ワから北京を見るということも必要です。 義という当然の って、むしろ日 に向ける顔のもっと奥には、 言えば大丈夫だというんですが、今、 くるときは中 んに言 た 東京から北京を見るのとずいぶん違う。 姚依林、 いている。 本当は 0 0 それにつけて日本 国主義を批判 今の中国 スクワに行 そういうふうに私は感じてい から ってい 2 た むしろ彼は今の鄧小平体制にどうも も非 李鵬とか、 国 2 東京から北京を見るだけではなくて、 でし た。 は 本のどちらかというとハト派より よくやってくれ の経済改革はすべて谷牧を通して、 アクセク っていたけれ 三年前 です いい ı してい フィ 50 批 こういう人が前 判 の革新政党は か 2 そうい かい るじ タブ です。 中国 ルル 的 5 にな 中国共産党で てい ル、 とも、 0 日 自術隊增強大 P ドがあったわけです。 それ 方が ら潮流が今の中 ないか。 2 本の社会党や T る。最近は靖 る。 つまり非 が今中 谷牧はあまり ソ い む ٠.... ٢ 連から る。 ī p 面 G 私は、 すか は ろまとも 15 N 出 常に 彼らにとっ 1) C. い い 日本のGN 、に結構 P 5 す it う批判をし 共 7 2 Ğ この九月 1 % 国 玉 かる 産 いい方向 し、 批 れ 問題 谷牧が の中 NP 社 タカ 党 モスク 判 発 から る ば だと 会主 は 0 E 的 陳 派 困 P H 7 かる 本 6 T

> が変わ とは事実ですし、 国を見ているし、 かざるを得ない ii の政治的凝集力がそこにあると思う。 でしょう。 ば中国社会を再び あ 時に中国 るということを申し上げざるを得な 0 それから、 当面文革 っていくということを意味すると思う。 文革 の路線が今後、 はっきりし のように ついでに申し上げると、そういう全国 のは、 期とは 中 混 陳雲も非常に賢明な人です 乱のちまたに陥れ 国自身が少しずつ開 まさにこういう党内 - 表 た ちがってそれ 何きの 0 は新し 鄧小平自身の政策を含めて 激 しい いり 路線対立 しか 対立 るとい かれて 全世 0 L になって、 界 から、 いり うことは C. ろい 変わ きて かじ そのこと ある ろなプ って かに 代 路 いり

-軍首脳、周派の後退

シャーが出てきているからです。

V

"

すで 首脳 かどうかということです。軍 恩来の與さ 葉剣英のような病弱 の人たちが最後的に 1, なくなってしまった。 4 に国 がかなり一掃された。 向 0 全 前 玉 これ 代表会説では、 鄧語 棚 5 超女史もそうです。 の人たちも引退してもらってい 上げされておるし、 の方は当然だったとしても、 ほぼ引退を迫られたとい それから、 人たち のツケが果たして将来来 あと目立ったこととしては もう一つは周恩来系統 がほとんど政 それから、 ウ ラ うことです。 李先念は 治局 日中 る。 カン

毛沢 れない。 かく終わったわけです。鄧小平の目的が私は六割くら かく、将来ひょっとするとある種の高いツケになるかもし そこまで中国が変わってきている。そのことは当面 杯」なんて言うと、向こうの人はいやな顔をするわけ ことでしょう。ですから、今中国に行って「周総理に乾 ては今は周恩来グル 毛沢東にかけ、 化大革命のときに私も目の前でそれを見ているけれども、 目指した人たちが現存するんだということをかなり いう、中国の中には西側との協力による開放経済体 か達せられなかったと言っ 東 ある意味では鄧小平が文化大革命をここまで否定 夏行、 たという点で特徴があるるような気がする。 こういう形で全国代表会議というものが今 デルを破壊 鄧小平批判勢力というものがこんなに存在すると よりオーソドッ 王震とかいら人がみんな今度代わ 、文革にかけたわけですから、鄧小平にとっ ープというのはどうも気になるという しているわけですから、 クスな社会主義計画経 たんですが、むしろ今回の大会 周恩来は、 った。 済 路 回とに はとも は 制 だけ 2 文

信号つい た経済 政

陳雲だってこんな もしも鄧小平の開放経済体制がうまくいっていれ いったいどうしてこういう問 に激しい批判はしなかったでしょ 題が出 てき

> けない方向なんですが、こ しめる方向が出てくるという一種の政治的オシュレー られないわけで、「収(ショウ)」、という収める方向、引き 難しい社会です。だけど、いつまでも解き放ってばか とにおいてはうまくいくが、それを収めることがなかなか う。それから、中国は毛沢東モデルを壊す。つまり解き放 にあちこちに問題が出てきたということもいえるでし ぎ過ぎたんです。 という点では非常に成功した。 す。ですから、いってみれば鄧小平は毛沢東モデルを壊す めた鄧小平体制の前途に赤信号がつきはじ の循環局面からいっても、 ろいろな混乱をも 「放(ファン)」という大いに大衆を動員してい 経済的、 ところが、ご承 社会的オシュ そして、ちょっとやり過ぎた。 たらしておって、 知のように、 もうすでに収めていかなきゃ レーションがあるわけです。 の過程で陳雲のような意見が だけど、それをちょっと急 このところ中 わば経済政策を含 めて 国 そのため る 6 1) くこ 済

い

そして の管理委員会の主任たちは、 私は中国のずいぶんあちこちに行ったけれども、 社は一切姿を消した。ですから、 公社だったが、この六月一日を期して中 知のように、中国といえば農村、 ルマを課する。 彼らは同じ農民出身でありながら いつも帳簿だけつ 農民は喜んだわけです。 般村とい 国社会から人民公 けてい 人民公社

常に有効性を増してくる。

を何回も私は見ている。との回も私は見ている。との目がら見れば、まさに彼らこれを観簿をつける階級、ノーメンクラトーラというのはそこがはないんですね。赤い貴族たちです。それでは、いったからくるんですね。赤い貴族たちです。それでは、いったからくるんですね。赤い貴族たちです。それでは、いったを観簿をつける階級、ノーメンクラトーラというのはそことを何回も私は見ている。

機的な財政赤字を克服するにはどうするか。 す。ご承知のように財政赤字はものすごくなった。 ら。ですから、八○%の農業人口がいるということを考え そして農民は一生懸命生産するようになった。ところが、 農産物の買い上げ価格を国家が引き上げたわけです。です てただけでもわかる。国家財政にとっては深刻な いて米価を引き上げるなんてこととは全く社 そうなれば農民人口が八億ですから、これは日本社会に て、農民に迎合する政策を取ったといっていいでしょう。 から、ある意味では、鄧小平は農民に対してアメをあ るとはいえ、やっぱり、なんといっても目玉になったのは くいくわけではない。全中国が小農民経済になってきて が、自由市場といっても、それだけでは中国の経済はうま の管理委員会をやめちゃったわけですから、農民 っていいというわけです。 そこからすると、そらいら人民公社を解体し、人民公社 そして、ワーッと勢いづいてきた。みんな自留地をや 生産責任制にお いて。ところ これはしよう 会の性格が違 この は喜

がないから通貨を発行する。人民元をどんどん発行したわがないから通貨を発行する。人民元をどんどん発行したわがないから通貨を発行する。人民元をどんどん発行したわがないから通貨を発行する。人民元をどんどん発行したわがないから通貨を発行する。人民元をどんどん発行したわがないから通貨を発行する。人民元をどんどん発行したわがないから通貨を発行する。

を書くわけです。 新年のあいさつに「お金をもうける 的に商業民族ですし、政治文化が違うから、広東人なんか 義です。皆さんご承知のように、中国民族は、まさに伝統 基準にする。 た。ですから、なんでもお金になるかどうかということを 中国民族の特徴だ」という、まさにその通りに からすれば決して卑しむべきことでもないわけで、そうで って思らんですが、政治文化が違らから、とに ましょう」なんて書いたら、みんなあいつはいやなやつだ クス・ウェーバー そうだったと思う。その堤を切り、枠を外した ートピアの中であえいでいた。 すごい消費性向があらわれた。 こういう状況があり、そして一方、中国社会の中に もうけるとか、利益するということは、い お金に向かってモノを見る(向銭看)拝金主 日本人が年賀状に「今年はお金をもうけ が言ったように、「勘定高さというのは 農民はもともとは貧 「毛沢東思想」というのは (発財)」ということ わば価 か か なってき 5 くみ 困 b 0

けです れはなんてことかというふうに陳雲が怒るのは無理な 中国民衆というものがワーッと出てきたわけですから、こ ですね。そして、急激にそらいら、 そうじゃなかった。それは禁欲社会はらわべだけだったん ばそういう風潮をすっかり変えたと思われた社会が、実は かということになる ら、毛沢東時代はなんであったか、 たじゃないかという風潮が蔓延してきたんです。 あるだけに、隣ももうけたじゃない わけです。 毛沢東思想によって、 いわば一種の樹定高い 中国革命は何であ か こっちでももうけ T. す つった い わ わ カン

から、 島の事件に表れたように、 とがワッと出てきたのが最近の中国なんです。 を稼ぐというようなことがい 自に日本から自動車を買って、それを他に転売し 回収するため っている連中に買わせたというわけです。それから、 具体的に申し上げると、 地方の省とか、あるいは経済開放地域の海南島が独 に日本のテレ 貿易権限が地方に分権化され 昨年は、いわば膨脹し ビをどんどん買って、 ろいろ出てくる。 こうい て利ざや お金を持 た通貨を 池 うこ

が非常に厳しくなってきているとみえて、この四月一日を わけです。 そうすると、当然外貨も不足してくる。そして 国では「 嵌 ですから、私は、 しい外貨管理の通達を四 外貨管理 途反処罰実施細 日本の大きな 月一日付で 則 1 から 外貨 カ 出 施 I して 行 0 不足 ほ

> 特別区に行くと額がかかっているが、鄧小平は 雲の存在を無視できない。そらいら鄧小平批判もあるだけ 鄧小平だけは西側の方を向いていて、陳雲だけは左やソ連 経済の概観であり、 そらいら問題が出てきていると思う。これが最近の政治 す。ところが、最近はあまり深圳をほめなくなったとか、 済特別区というのは の方を向いているではなくて、陳雲の圧力もあるだけに陳 正が行われつつあるんだというふうに私は見るわけです。 な意見が強くなってくる。そういう形で、今や鄧小平を含 してくるし西側との協力そのものに対しても党内で批判 れは当然でして、 ど、この春からぴったと止まっ めてリ・オ 本当に気持ち悪いほど中国 とんどの 鄧小平自身も軌道修正してきた。ですか しい リエンテーションというんでしょうか、 ろいろな方とお会いしてい 中国自身がそういうふうに、外貨も 中国の新しい姿だといっていい。 本当にいいことだ」と書 からオファ ちゃったというんです。そ るんですが、 Ì があった。だ ら、深圳の経 い てい 「深圳 るんで

甘い日本側の見方

もりだが、一般には、もうとにかく日中関係は友好万々歳なんです。私などは、そのようなことを申し上げてきたつわらず、わが国はこの間中国をどう見ていたかということわらず、そういうふうに中国が変わりつつあるにもかか

そして、 い ん流 ながら、 で何 てずいぶん の方に寄 う状況 門も問 そうで れが左の方に寄ってい もっと日 というふうなことを政 になったと思 2 実は中国自身は今まで右の方を流れていた川 中国はどんどん 心がない ていっているわけだから、 L いいなと思って たね。 本の技術 んだ、これ だが がほし 日本が来て合介企業を作 日中 2 し、 府高官 ると、 ちゃっているわけです。 い ほど日中 関 係が非 経済協力をし もずいぶん言 知らな 日本は右の岸に 関係がいいとき 常 いら 15 し、 ちにだ いとい 7 ってほ ほ んだ から わ 立 は n ts

るい らでし それなりにつかんでいる。 ジネスを通じて、 6 私の教え子も今大勢、中 プの人たちは、 ゆう手紙 好は万全、 ですが、 それから、 ったんです。 がゆえに、そこに一種の行き違い、ボ 中 ı 中ソ関 国ブー 5 をくれたり情報をそれなりに 第一線にいる人たちは中国 日 特に経 係が ソ ムでワー 本 なんとなく甘い では中 0 日本の企業の 和解 和解 済実務 国自身が非常に旋 ッと中国へ もってき日本が、 は しつつあるにもか 国に駐在し ところが、とにかく日本の あり の第一 得ない 人たちはみな優秀ですか んです。 線でや 出てい ているか とい 私 人のしたたかさをビ そのことがあ にも伝えてく っている人た った。 かわ ら認識 し、 タンの L わば昨年来 2 5 らず、 つある、 か しょっ NE け途 立 いち、 では 日 る 2 1 n ,, 5 か "

> ない。 ばする 果積 近い する かということを抜きに るんであって、 日中貿易 にも大きな問題があると思う。 ているのが現状です。そういうような状況ですから、 はたくさん買う約束 中 ってみれ 国としても消化 してい 往 ってしまって、中 石炭です。 日本が中国 仮に伸びても中 と尾 ほ 復額があるけれども、 ば、 と中 はもう限界に達していると思う。これ るし、 擦が起こる。 E 中国が日本 そのことをどういうふうに中 これ から買うものというの が赤字になるようになっているんです。 貿易構造からしても日中貿易が拡大すれ しきれ は したけれ L 国 国側の赤字がたまっていく構造にな ご派 て日中経済関係を楽観視するのは ない の石炭はそんなにいらない。 から買いたい 日 中貿易に すでに三十億ぐ ども買いきれ んです。消化しようとすれ 知のようにエネ 私自身の見方からすると、 したって、 は、 \$ のはたくさん なくてカ その大部分は 画側 らい ル 丰。 以上は伸び が考える の赤字が 北 そこ ある 儲

のる苛立ちと靖国問題

危険だと思うんです。

五十ドルの社会ですから、 才 立ってい 1 1 たんです。 ら状況があ プレゼン 特に、 スがあった。 0 たの で、 その苛立ちの中で日本 日本の四十分の一です。 中 一人当たりGNPが二 侧 は このところ大部苛 0 そこに 種

何%か、ごく少数です。 でお金を持っている人たちの消費性向があおられたからテ 立ちをつのらせる。 動車を売込めるかのような広告を出すこと自 なにもテレビを売ることもないのに、 レビを買ったんですけれども、 確かに去年(八四年)は、 それは十億中国民 どんどんテレビ 体が そうい 衆の中 彼 5 ら形 0 p

そうい C. らず、 常に派手なんです。中国共産党の機関紙であるにも い 日立、 業の広告が連日のように出ている。 テルが少しずつ出てきた。 最近はホ それを買える人というのは本当に少ない。いってみれ 府井のところにもあんなに大きなソニーの広告があるし、 学生にしてみれば、なんとなく帯立つと思うんですね。 この違いは歴然としているわけです。 広告は、 期だったが、九月の『人民日報』を見てみても、 る。 てある。この「 九月は、 う最近の中国の開放政策の中では全く人として扱わ とにかく非常にきれいなイラストで日本の企業は非 NEC , y=-, 日本の企業の広告が毎日出る。 やっぱりどことなく田舎くさくて地味なんです。 国人は、いってみれば、 テルなんかも対外開放といって中国人も入れるホ いろいろな意味で中国にとって非 対外 とい シャー ホテルのところに対外開放と書 うのは中国人のことを プ、 こういう経済発展とか、 マツダ、 いずど、 これでは北京大学の 一方、 中国 常に 1 ナショナ = 侧 タも出 重 日本の企 かかわ 要な時 0 らん 企 ル Ŧ 業

> か、 かい るからです。 をめぐっても中 日 の学生を刺激したということは当然考えられる 1, るい れていなかった。 っている。柳条湖事件の記念日ということがある 同時にこの日は全国代表会議の開幕であって、 ー・プレゼンスです。ですから、 反日デモが起こっているということは、 しかしながら、 は外国人。 こういう状況の中で、 国共産党の中にかなり深刻な意見対立があ ホテルに入れるのも高級幹部の子弟かあ あのデモが九月十八日という日に起こ そのことが北京 日本の企業活動 当然対日関係 わ け け その当 九 です

のときは現にやっているわけだから。 とも今回 立の原因になる。 い 中国から全額日本負担で受け入れる用意をしなきゃいけな があるなら青年を派遣すべきだ。逆に、 行くときは日本のお金で行くべきだ。 てもらって行く必要はないじゃないか。 になっているんだから、 ら申し上げていたんです。やっぱり、 かったかも、 えば公安部隊を注ぎ込んで鎮圧できたんです。天安門事件 そもそも去年の三千人青年を招いたことがよ ああいう無理なことをすることも、 のデモを鄧小平は規制できなか かなり意見の対立になっていた。 それらのことがいろい なにも中 国側に全部旅費まで持っ ですから、 政府もそこまで 日本はこんなに った。 なければ三千人を ろあって、少なく やっぱり日本人が いろいろ意見の対 私も当 やろうと思 か そういら 0 た か悪 か

見るわけです。 立ちとしての対日批判という問題が底流としてあると私は ことを考えると、
靖国問題というのは、実は
触媒であって 本当はいろいろ深刻な中国内政及び、それに対しての苛

思らんだが、そらいらような状況が、このところいろいろ らむらせるというような関係が一 ているように日中関係は異母兄弟の関係であって、そこは 広告のところに「経済侵略反対」と書かれて、その自分の な局面に出てきていたと私は見るわけです。 オーバー・コミットして、どちらかがどちらかに恩恵をこ おのずと冷静な付き合い方をしなきゃいけないし、あまり いうことですから、そこはやっぱり私は従来から申し上げ ん来てくださいといって出て行ったら、今度はやられたと ョックを受けていた。そういう状況です。日本からどんど 出稿した広告が北京大学の中にはられちゃっているんでシ が広告を出してくれといわれて出す。そうしたら、出 係だったらしくて、非常に高い広告料だそうです。 私の教え子のある駐在員は、 『人民日報』に広告を出 番いけないというふうに 向こう した

内 政的変化の今後

とか。二十一世紀もかなり先でしよう。中国は今世紀

でに干ドルにするといっているわけでしょう。それも最近

では八百ドルでもいいなんてこともいってい

おそらく

ってきたんでしょう。そういうような要因をいろいろ考え 人口圧力からすれば、とてもそれが無理ということがわか

ということなんです。 は、その中国の内政的な変化というものが今後どうなるか そらいら状況の中で最後に申し上げた 私は、 この流れがもう一べん逆流す こと

> 買えるうちに買う、物に換えるということだから、 なり安定してくる。誰が指導者になってもおそらく基本的 すと思う。だいたいアジアのNICS(新工業国)なんか と今後も繰り返すであろう。どこまで繰り返すだろうか、 に、みんな不安に思っているんだろうと思うんです。 自身も、明日鄧小平が亡くなったらどうなるかというふう と思えば貯金するでしょう。貯金しないということは、今 ど、中国はみなん今、物があったら買いたいと殺到するの にその社会の方向は急激に変わるということはない。一 を見てみると、二千ドルくらいを超えると、その社会はか やっぱり一人当たりが二千ドルぐらいになるまでは繰り返 るということはない。これはポイント・オブ・ノーリター は貯金しないからです。 もそうです。二千ドルの壁を超えるとそうなる。ですけ っている。それから貯蓄率が非常に高くなる。韓国なん の成熟……海外旅行なんかも自由にできるように徐々にな ンだと思う。だけど、さっき言ったように蛇行は右 ところで、中国のGNPが二千ドルになるのはいつのこ この社会が、鄧小平以後も安全だ 中国人

させ得るわけで、そこを含めて考えると、まだまだ中国 きだという、そういう対立は当然あると思うんです。です 義、社会主義という案があるという方向でやっぱり行くべ 指したのは、麓でみんなで合意したのはあの左の山を登る か 深く峠まで行く。おそらく峠まで行って鄧小平も陳雲も、 るかもしれない。そういう状況が今ありながら、再び注意 というふうに、もう一べん最後の胸寒き八丁を登り始め そこに崖があるかもしれないという状況に直面した。そこ 畑をみつけた。 して、花見酒の経済で浮 毛沢東体制という冬の時代を過ぎて春になったんです。そ テーブルな状況を繰り返さざるを得ないだろう。 ると、 会があすにでも近代化するとか、 線闘争が起こり得るということを当然、今回 から、ある意味では鄧小平なき後、 ために登山を始めたんじゃないか。 いう問題が出てくる。 いわば天寿をまっとうされる。 いるというのが今の状況です。だけど油断すると崖に落 で今、鄧小平を含めて、とにかく峠まで行こうじゃないか て悪天候下のガレ場を登って雪渓を登って、ようやくお花 いや、雲の中にあるかもしれないけど、われわれが目 やはり、 そこで浮かれたんだが、このまま行くと、 かなり今後も中国は長期 このまま右の安い かれた。 さて、その先どうなるかと あるいは麓から登り始 日本のマー よりそらいら深刻な路 左には高い峯、 ルートを通 的に非常 ケッ 0 事態は 長い にアン トになる るの 間 ス

と私は考える。とればとんでもないことだと思うんです。やはり十億以上とかはとんでもないことだと思うんでするかということだとれば新しい矛盾を生むし、こういう社会をいったいか省力化、つまり、現代化というのはそれにつながるわけか、それは新しい矛盾を生むし、こういう社会をいったいか省力化、つまり、現代化というのはそれにつながるわけいでも大変であって、とにかく八億の農業社会、機械化との人口を抱え、産業構造の展開をどうするかということだと思うんです。やはり十億以上とかはとんでもないことだと思うんです。やはり十億以上とかはとんでもないことだと思うんです。

に転する中ソなどの関係

から、 とを言っているけれども、絶対そうなりません」、という から 申し上げていると、「いや中ツ間には三大障害というもの 況が起きると、やっぱり社会主義との関係というのはもう そう簡単に中国は使うわけにいかない。こういうような状 間銀行の協調融資とかいろいろやっても利子が付くか 余力がない。中国だけに円借款をやるわけにいかない。 限界が出てきているということを中国も知っている。 ことを中国でも言っていたけれども、あの三大障害という かなり良くなると私は見ている。従来からそういうことを 一べん中国も再検討し始めているわけです。それ あるから、大丈夫です」とか、「中嶋教授はああ こういうふうになってくると、 鄧小平を含めて中ソ関係なり社会主義の関係 日本からお金を借りようと思っても、そう日本にも 西 侧 との協力に も徐々に はやは いうこ

見てい

ない

んじ

40

ないかという気がする。

ですらか今

回の

東京から北京 けです。 定です。

を見、 50

しか 題を含

も北京が東京に向ける顔

だけし

間

んで考えると、

どうも

日

は

で決められた中ソ科学技術協力協定及び中

もちろん中ソの長期貿易取り決めもそこにあ

るのが去年 く日本には全く

0

--

月のアル

٢

ポフ

で、

陳雲なん

ÿ

0

経

済 かとの間

易

るわ 力物 相談していないでしょう。

そこで生きてく

おそら

ような靖国

問題が起こっ

たり、

急激に日中経

済関係が

たことなのかというふうになるわけです。

だけどこれ

いろ問題が起こってくると、

2

中

た 1: しい 近非常に改善されているし、 とで妥協が成り立って、 がなくなって、 ことは、 というものがあった。 なんてことは悪夢だと思ってい もら終わ 指導者は思かではない。 われわれは中ソの く。聞きにきた人に向 があったときに、 受けるかとい は非毛沢東化 んだんできているし、 ルポト 期である。 くと思う。 1 は なんとか ルを飛ぶようになる。それから、 中 こういう状況です。 国 が退 rja ったんです。 から ってみれ シ間 1 3 ジュ 7 陣し 西侧 5 に従 カ 7 ル フガニス 隣のうちとの垣 のバ 和 たことにもよって徐 ネーブ 日本やアメリカは、 あの時 解とい がば西側 7 に衝撃を与えない ョリを戻します。なんて言うほど中 2 ル イラテラル てプレジネフの それは、 三大障害というのが出てきたとい 政 かって、 うほぼ 権 タンもご 現にモンゴ 諸 の会談でもそんなようなことが ソ連もそろそろ引くべきだとい 意志決定があったがゆえに、 期だと思うが、 の代表は今、 国に対するプレ 飛行機も再び北京とウラン な どうしようもない 根をめぐったせ あなた方が心配するよう たので、 意志決定がされ 承知のように ル 国間関係に ためにまさに三 タシケント ベト と中 もら中ツが和 K 北京へどんど来 みんな に そらいら意思決定 私 ゼン ナムとの関 国と は 既成事 良くな たの 0 はもう障 田 **|** めぎ合 表明をどう 関 き ts 一大障 解する 係 h 2 係 \$ 5 に しい い H 15 酸 害 5 は わ 私 で 0

> 共和 ワ| はソ連側も非常に乗り気です。 南を通ってモスクワに最短距離です。 がつながると西シベリアにも非常に近くなるし、 ことになった。 全部ウラジオストクです。 里からいく鉄道、 みんな大回りですから。 と大きな間違 治区のウルムチからウスというところまで鉄道が作られ これ 玉 のアルマー 北京間 るかというと大西 は、 の最短距離 ってみれ いを起 そこから国境地帯まで行くと、 それから綏芬河の方に タか こす。 ば日本 ら国境まで線が米てい ウランバートル 北 の鉄道を作る。 大回りですか 現に一 プロジェ やなんかがそこだけ見て この大西北計 方、 クト このブロジ 中ソ間はどこまで進 ら新 とい 抜けてい を通ったり、 今三本ある鉄 画は、 るか って、 疆 後は ウィ 工. ウラルの 5 クト グル自 欽道 カ 七 ザフ 湖洲 スク る

25

じゃないかというふうに思うわけです。は、普通に中国を見ていれば当然その流れが予測されるん

ただければ大変光栄に存ずる次第です。(拍手)されたので、もし足りないところは、そんなものをご覧いて後の中国」(第一企画出版)という二冊の私の本が出版年後の中国」(第一企画出版)という二冊の私の本が出版以上で私のお話を閉じさせていただきます。

質疑応答

米国の対中理解

|質問|

のような形での理解をしているのかどうかという点。いは中国の国内情勢の変化というものを現時点で、先生のご理解レーガン政権が、中ソ、あるいは日中というものの動き、ある

中嶋教授

シビリアンも入れ替わり行って 一生懸命中国に説明してきているりしたたかだということは、 少なくとも第一線に立っている人はわかっている。 ところがアメリカの場合はまだまだフレッシュなわかっている。 ところがアメリカの場合はまだまだフレッシュなけんたかだということは、 少なくとも第一線に立っている人は日本はいろいろ経験を学んでいるから、皆さん方も中国はかな

す。 りつかれている。ですから、その点は日本の外務省なり政府もア のはSDIの問題です。この問題では鄧小平、趙紫陽ははっきり メリカに指導していくぐらいの気持になってほしいと思うんで ら離れていられるんだという 中ソ離間策が有効だという神話にと ャイナカード政策です。つまり、中国を支援すれば中国はソ連か アメリカは、米中関係が良くなって、そして同時に依然としてチ 分析については中国書を見るまでもなく、実に米中関係について 省に長いチャイナ・サービスの伝統があって、中国情報とか中国 リカ国務省自身がきちんとつかんでいない。かつてアメリカ国務 るようなことを言っている。そういうようなところを、どうもアメ 最近の中国の発言を見ていると、核軍縮なんかでもソ連を喜ばせ 重要な問題ですからその点でもアメリカの剣ではないわけです。 カのSDI問題に組みするかしないかはソ連にとっては決定的に と反対の立場です。この点でもソ連が暮んでいる。 中国がアメリ アメリカはむしろ豊富な情報分析をしていたが、このところ

主催講演会記録、文資=編集部)